

水國畫  
 八巻内

柳田文庫  
 文庫11  
 A1846  
 1













たゞしりきしののちま

各方を著し盛んして勸学を

白井藏書

希々自出交授んば

小學の教大なり再け各方を於て

略そ結授らば其所ある趣を

小のどし免角實地小道可なり

藉千之是の遺憾小存以依

今多の之あるを只管彼を

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '白井' and '藏書'.







亦といふ類を以て人百を以て日本全圖  
の地理概略を記し日本全圖と表題  
しし各方の清國を以てありし一様  
能文少くも此交板未解し中付出版  
いたし一書各方少くも出人の清國史文  
を清國を以てありし我が日本の地理  
を清國を以てありし次年一編  
海峽の世象國畫を以てありしこれ

ついで我を以て後しし彼を以てしし  
能謀を以てありし全世界地理の概  
略を以てありし一書各方少くも出  
人の清國史文を以てありし一編  
之ありしは此書乃て交しし一編  
之ありしは此書乃て交しし一編

瓜生の手紙

子供名

若方



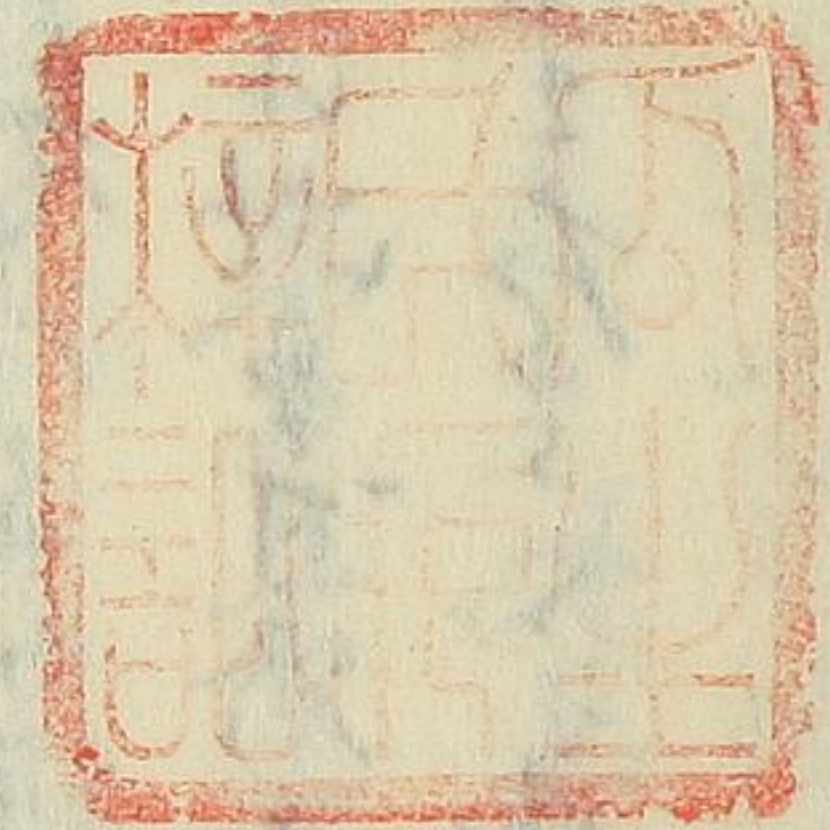


瓜生氏日本國盡卷一

總論

凡此地面以上所有物  
能中少揚者至望其  
子了るを能く其其  
きる海を持て地面の上

瓜生氏日本國盡卷一



柳田泉文庫



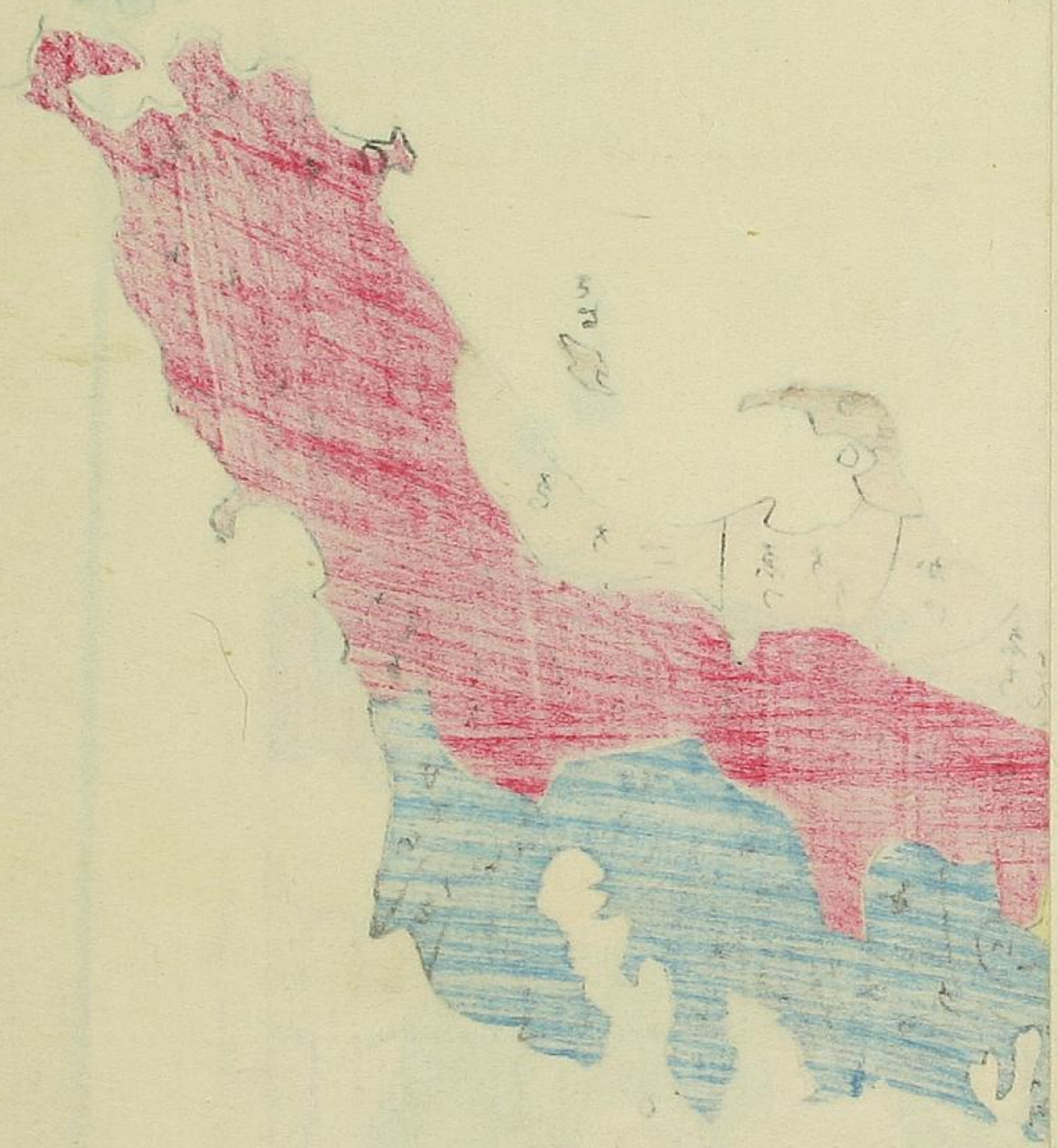
ふありの形より地面乃乎紙  
知るるを最る前  
持の夫是地の形也圓  
中を恰と極の二尖の  
ふ因に地球を名  
地球と申すは其極の尖

乃形を頭小極あるを總  
面より高は低を之を地球  
解するを南極北極  
て北を南の端とす其總面  
のなる低の首を山陸  
低きを海と河の水陸を水



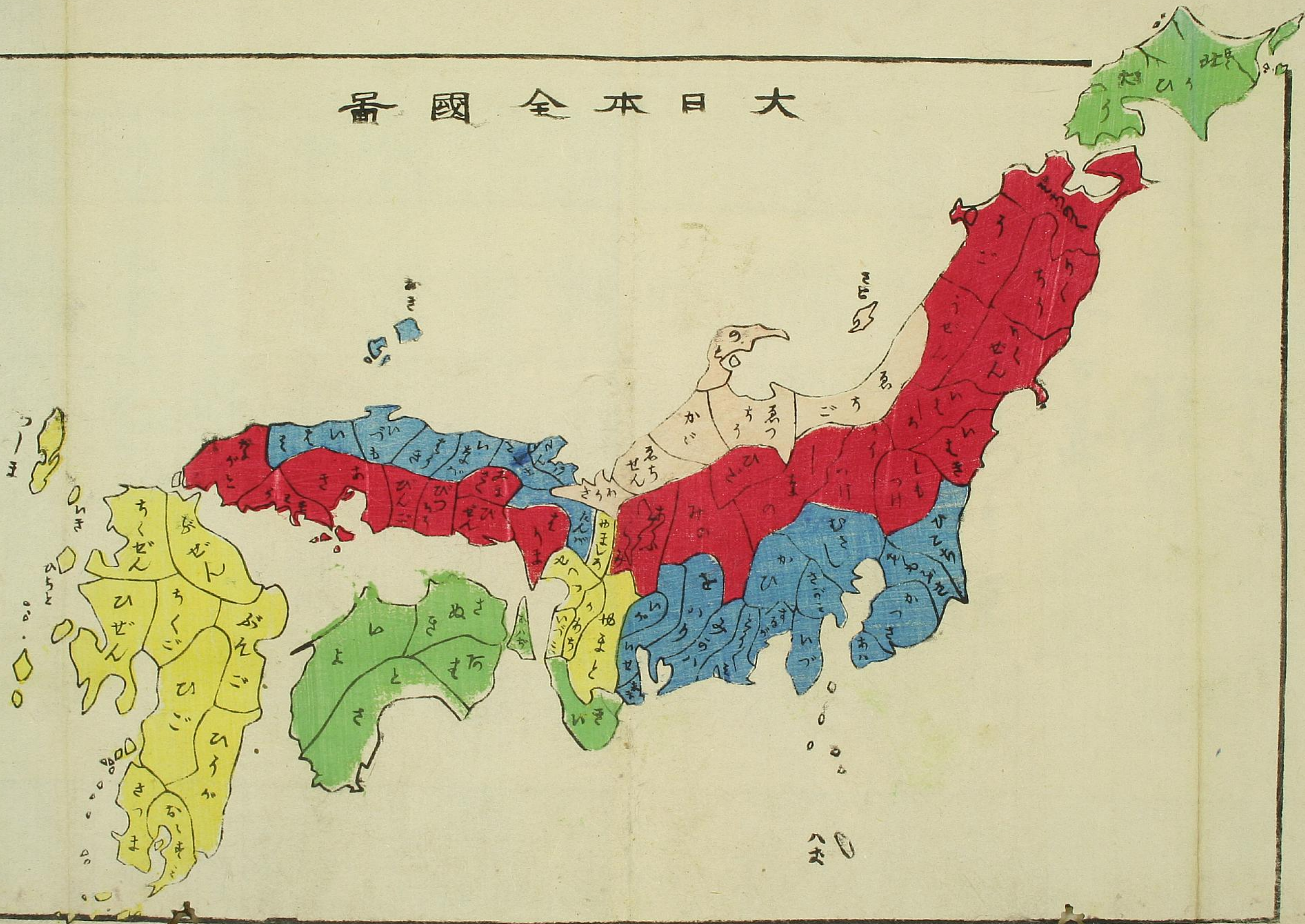
大月水の三分一  
 由小國之教おほく林の如く  
 了立ち並ぶ中國を一集  
 一柱をとり區別し  
 亞細亞弗利加歐羅巴南  
 小亞墨利加大洋洲名を

大日





大日本全圖





全 國 圖



五大洲のふ其一を知ん  
 多る。先づはきたる本國の  
 家。目にする。お習ふ。下。  
 世界も。廣く。萬國を。多き  
 中。もし。輝き。其の。中  
 する。目。の。中。に。細。中。に。

日本國







地味し紀之五穀射産曲豊の  
 少人の子智も他より優是  
 学校乃数年お増し開化  
 近日より急ぎ陸小の  
 鉄乃傳に探水も急ぎ  
 大輪船東洋一の國也

徳(中)國の強稱大八路又  
 曲々草原乃水植(國)とも言  
 つまじし一の  
 神武天皇以来を長く大和  
 系都を以て國をヤマト  
 小とし又「モト」ともえん

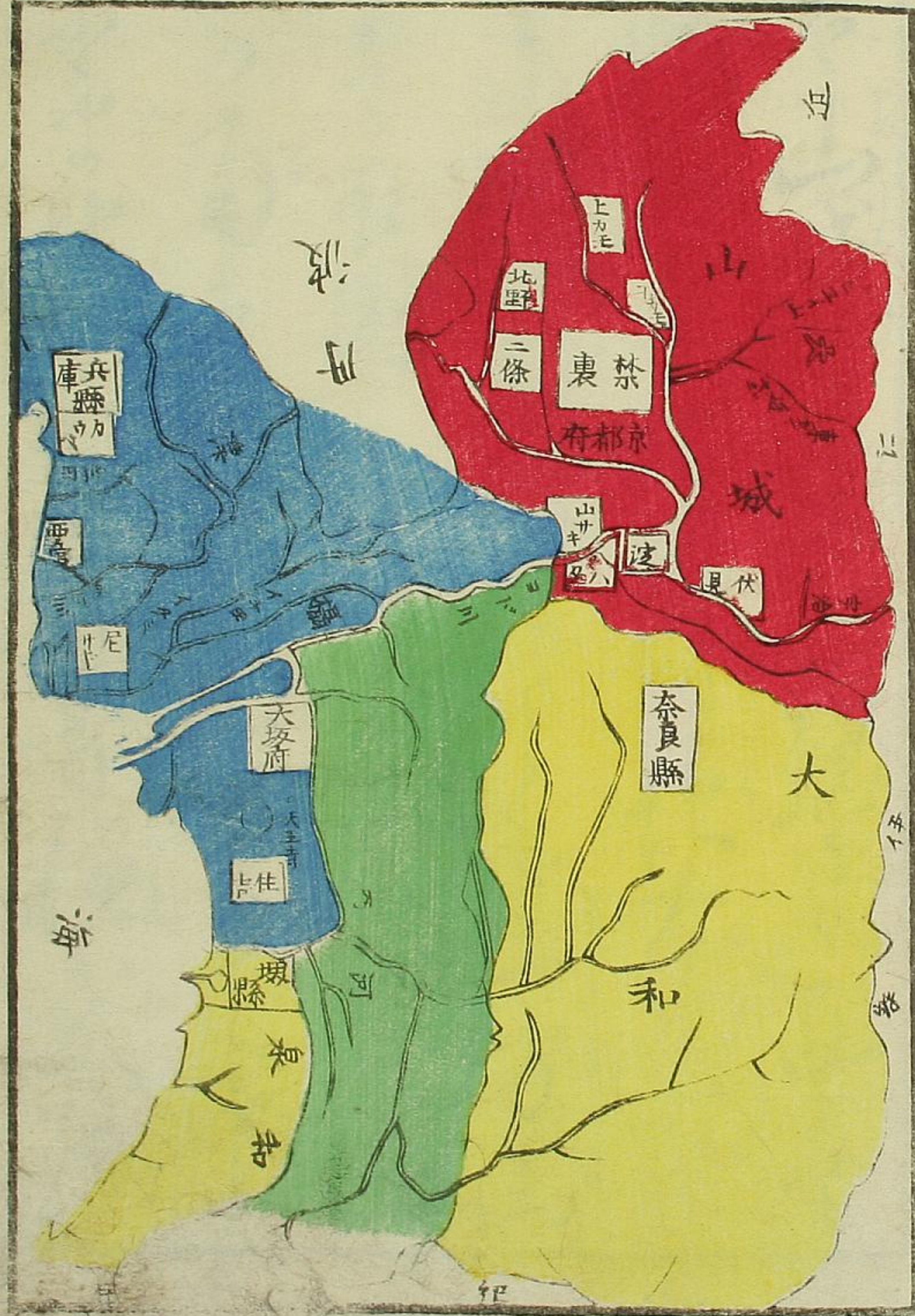


よ。樂。倭。國。又。も。日。本。の。文。字。  
を。用。ひ。て。音。讀。す。古。來。六。  
十。八。物。あ。て。五。箴。七。道。と。二。  
名。あり。分。け。海。外。の。名。の。  
可。し。を。去。る。成。辰。の。冬。八。十。  
四。物。五。箴。八。道。と。新。し。改。え

字。ら。事。天。の。元。  
今。上。帝。睦。仁。天。王。國。號。を。  
武。藏。の。江。戸。に。強。め。玉。ひ。持。を。  
東。京。と。改。め。く。移。り。皇。居。  
を。と。り。玉。ふ。宇。内。事。探。の。政。  
え。此。昔。不。幸。復。り。藩。治。乃。田



五畿内國

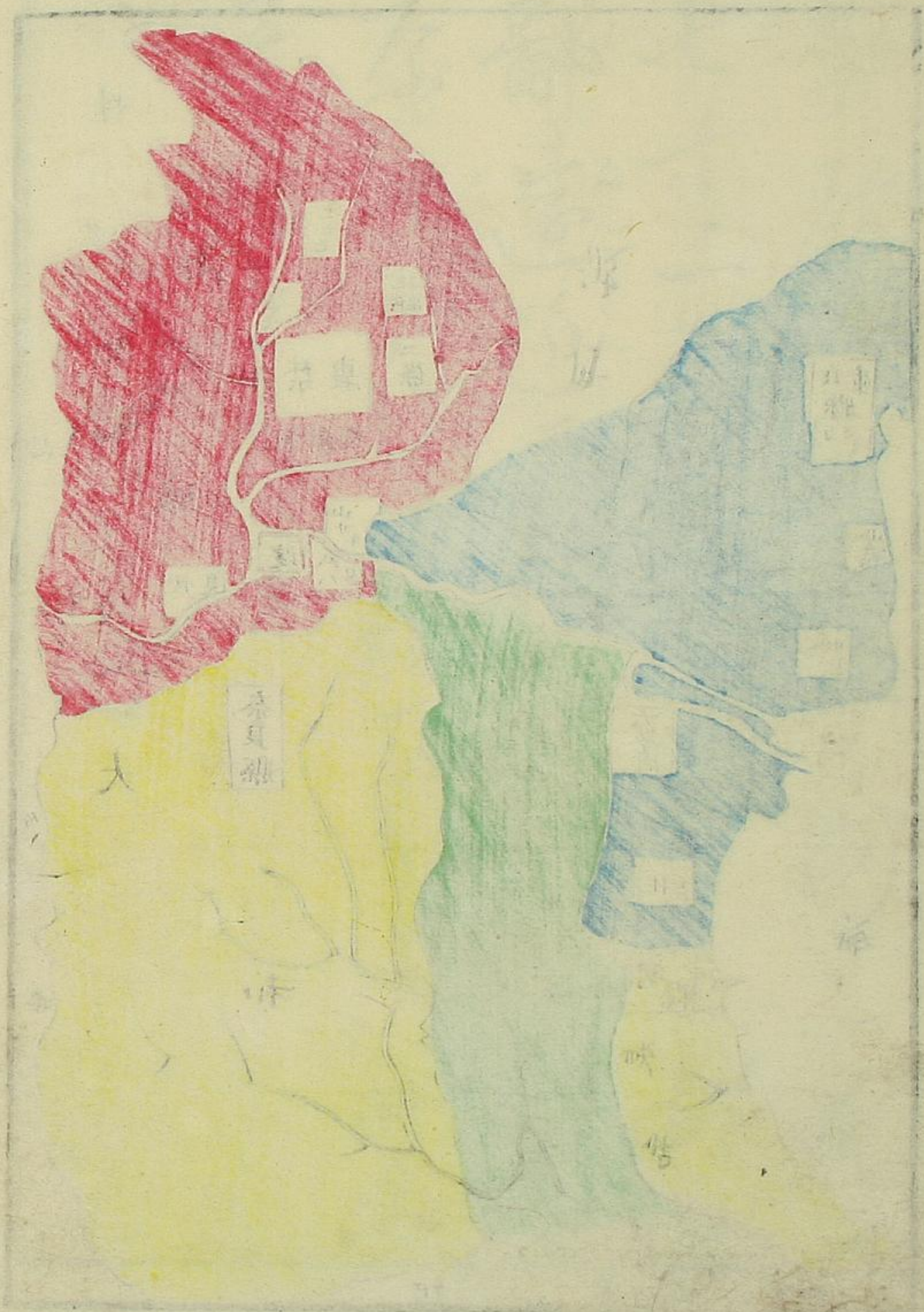


畿内五國

畿内五國  
 七十二の郡を置きて都  
 鄙遠近王化を仰ぐ  
 類あき御世  
 全(國)三(府)



内國諸



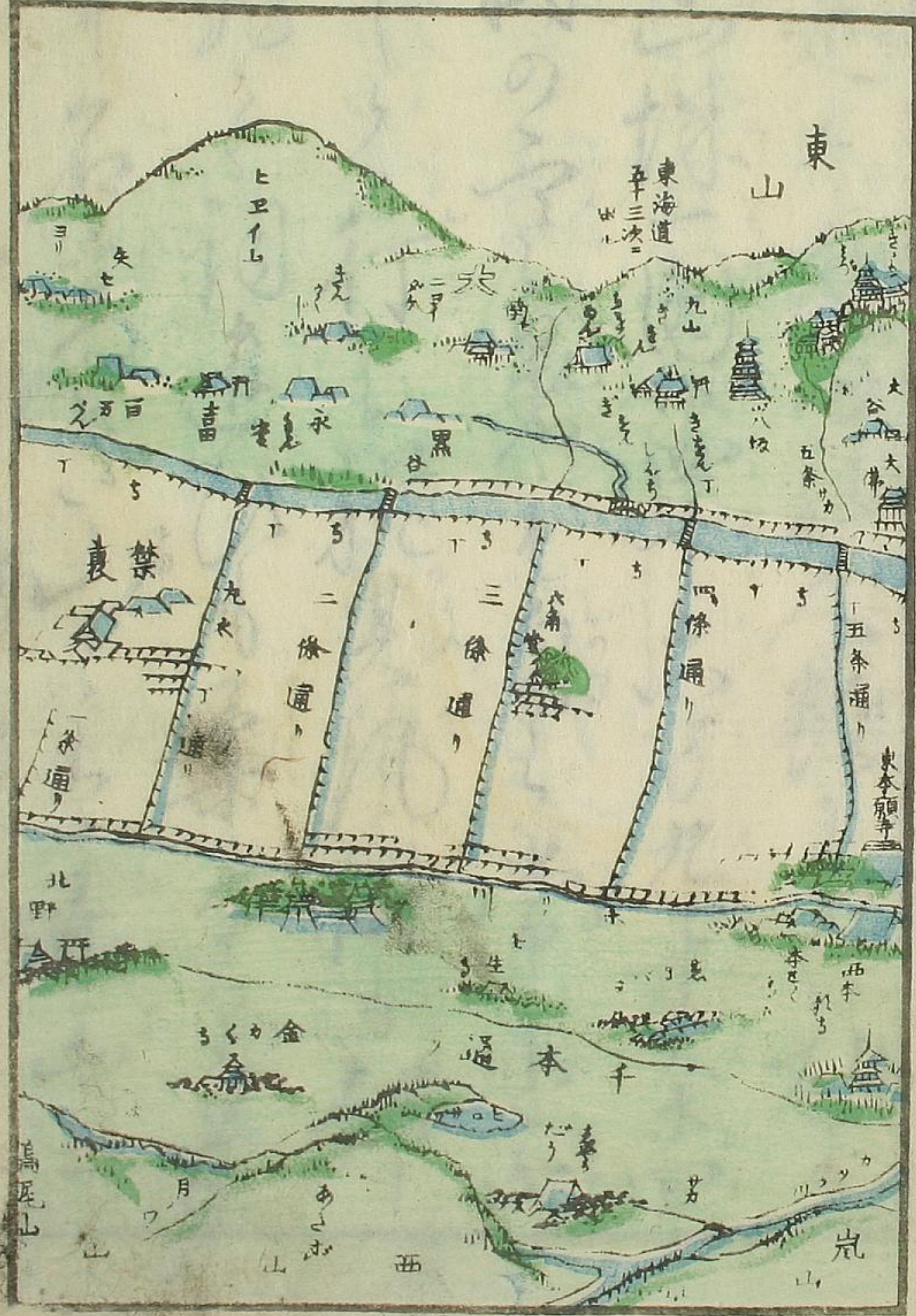
冬山城乃。京を筑ぎて西を  
海解の三方に陸地あるを。  
一、東山城名を筑ぎて西を  
一、その内國。海を以て國の其  
一、つち田を低く水田を中  
少田の地をぬき、昔植武姓

日本國無疆土

七



京都府圖



帝より以來、  
 今尚之を京都府と  
 申す。府府を置けり  
 里。大道基盤の目乃  
 九條より分ちる。外その外の小路支  
 是より村なる人、口三十七万余。



是乃府内人数多也。尤も  
 山城一圍ハ四十万九千余。四  
 町のうち若くは自ら常小正  
 しく行はば其風俗も都  
 府に同進しむる事なるに疑  
 有らざる事也。東山より

京都府図





嵐山あざな 叡みこと 宮みや 之の 名な 高たか 麗れい 小こ 菰こも 子こ 山やま  
 續つづ 木き 原はら の 川かわ 鴨鴨 宇宇 治治 大大 堰堰  
 本本 津津 川川 の 法法 流流 聚聚 水水 之之 流流  
 入入 了了 續續 也也 錦錦 小小 絹絹 布布 野野 鴨鴨  
 川川 阿阿 友友 仙仙 染染 白白 川川 石石 也也 砥砥 石石 野野  
 清清 水水 陶陶 器器 宇宇 治治 の 茶茶 是是 之之

此此 地地 の 産産 物物 京京 都都 府府  
 産産 物物 叡叡 宮宮 之之 山山 一一 園園 之之 小小  
 又又 丹丹 波波 の 内内 乃乃 三三 郡郡 也也  
 二二 小小 大大 和和 仁仁 子子 過過 半半 山山 海海 外外  
 國國 の 所所 産産 二二 万万 今今 一一 万万 二二 千千  
 五五 百百 又又 三三 十十 年年 年年 の 所所 産産 若若

日本國書卷一



神武天皇平定以來累  
世の東部之土地を耕し山  
陵をり數地有り其地内  
をふいふ土地はふも  
平地を和銅三年を起  
至天應延暦の以て七十餘

年の中なる皇居のあり  
初ゆゑとも南都と名を  
稱大和國叡臨のたを  
おのり存あり當國中  
の人口は三十のあ七百人  
國の廣さるゝ東十四



南より小なり。至るを二十  
 里。四河の冬季候は山嶽。あ  
 寒く暑ともより温和なく  
 其風俗はあつた。少  
 尖き所あり。此國東南  
 山深く峯を重ぬる。芳

那山櫻の名所。海田一西。小  
 首。嶽。全。割。山。少。り。ち。物。類。  
 喜。日。山。川。の。茅。野。小。大。和。川。  
 手。菜。の。よ。り。旧。跡。より。古。物。  
 今。り。尚。跡。あり。目。を。遊。び。ま。す。  
 そのおなる。其。産。物。の。名。



良晒<sup>らざい</sup>方<sup>かた</sup>那<sup>な</sup>遠<sup>とほ</sup>ふ池<sup>いけ</sup>烟<sup>えん</sup>を是<sup>こゝ</sup>  
きごを名<sup>な</sup>を得<sup>とく</sup>し値<sup>ち</sup>ふたをこ  
三<sup>さん</sup>り河<sup>か</sup>内<sup>うち</sup>しやうし山<sup>やま</sup>國<sup>くに</sup>海<sup>うみ</sup>  
な一<sup>いつ</sup>國<sup>くに</sup>の持<sup>も</sup>たみこつ東<sup>ひがし</sup>南<sup>みなみ</sup>  
と大<sup>おほ</sup>和<sup>わ</sup>の國<sup>くに</sup>紀伊<sup>きい</sup>の國<sup>くに</sup>と東<sup>ひがし</sup>  
界<sup>かゝり</sup>して山<sup>やま</sup>圍<sup>かこ</sup>めと其<sup>その</sup>中<sup>なか</sup>

ちをさるく平<sup>ひら</sup>たき續<sup>つづ</sup>地<sup>ぢ</sup>なり  
西<sup>にし</sup>小<sup>こ</sup>湫<sup>しゆ</sup>川<sup>がは</sup>流<sup>なが</sup>れ來<sup>き</sup>て橋<sup>はし</sup>津<sup>つ</sup>  
と界<sup>かゝり</sup>をとお分<sup>わか</sup>ら池<sup>いけ</sup>沿<sup>かた</sup>水<sup>みづ</sup>田<sup>た</sup>  
いし多<sup>おほ</sup>くはる流<sup>なが</sup>れをこ  
畫<sup>え</sup>の並<sup>なら</sup>み軍<sup>ぐん</sup>小<sup>こ</sup>和<sup>わ</sup>の和<sup>わ</sup>舟<sup>ふね</sup>は  
東<sup>ひがし</sup>の舟<sup>ふね</sup>乃<sup>すなは</sup>絶<sup>た</sup>る方<sup>かた</sup>と京<sup>きやう</sup>



里橋津の大坂へ通ふ路人  
は水より便しと求めぬ者た  
たるる國の生の中を大和川  
流を通りて諸の小川を  
み西乃を橋津の海へ流さ  
行くに稍南狭山とて曲る

圃小流く大池あり昔出宗  
祚帝の所生地り水の乏き  
を憂ひ玉ふと堰とて  
本物池の始たる國中廿一  
百と云ふ九百の人口を東西  
五里より南小十里の



四里水とてや。上下男女も河  
をべく。風候も柔。積柔とての  
下。元候も暖。柔多し。  
とて。其産物も名も高  
き。河内本綿。小全割砂。  
才四和泉。とて東南より。山

並び列せり。水海ふた  
ち。龍み國中平原又多し。  
平原北より。極多し。堀  
つ。瀧。あ。架。橋。河。泉。た  
堀。少。く。路。の。東。より。三。國。乃  
堀。自。河。あ。る。ゆ。ら。の。小。東。に

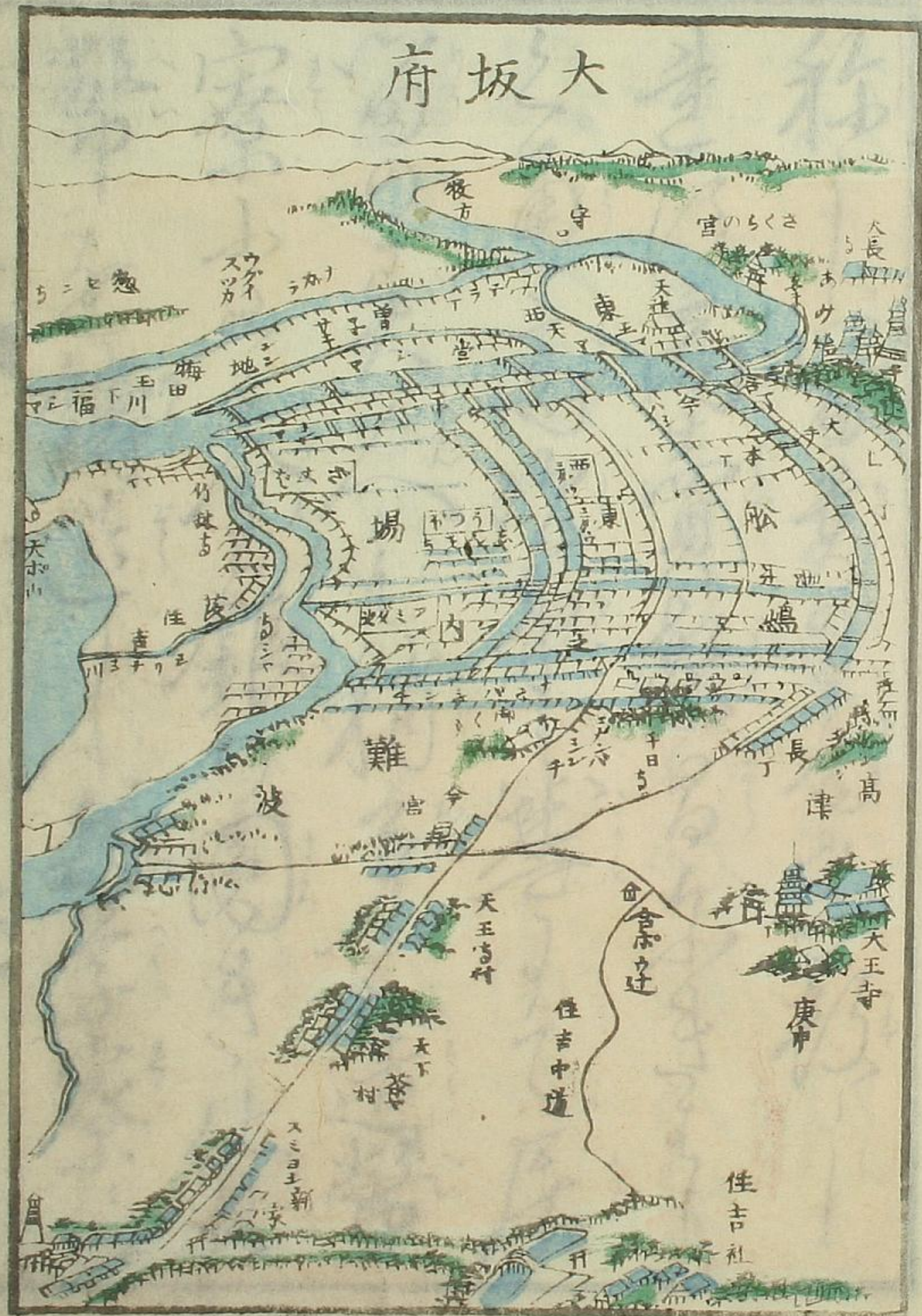


河内水ヲ攝南ヲ乃ハ和  
あり。水ヲ下リテ堺縣ニ  
廳ヲ立テ置テ河内ニ  
を全轄ス。一國人口二十  
國ノ東西五里計。南水  
水十二里余。水條も河内

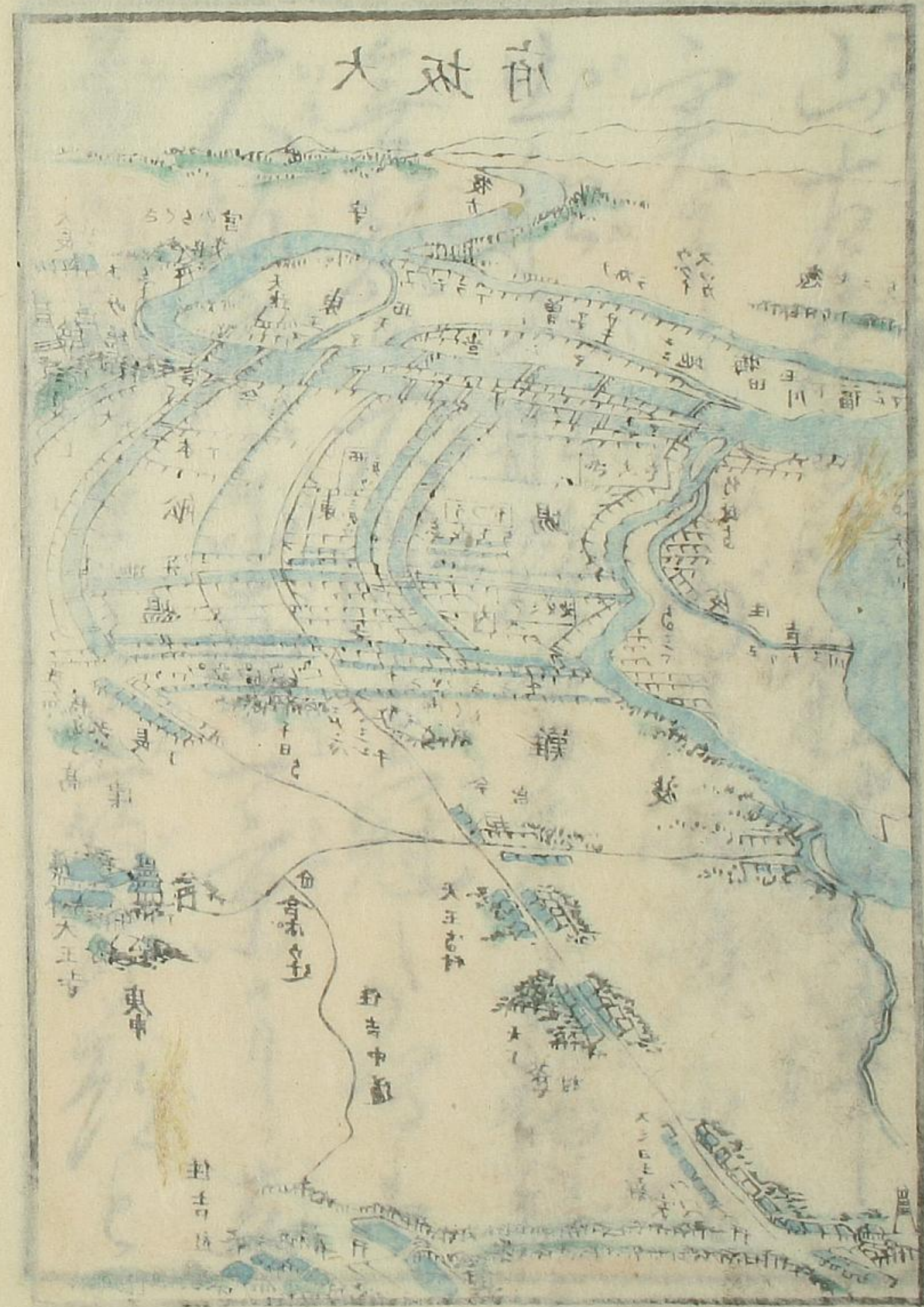
水美ら好む人の用候  
義多し。其産物を酒  
と調  
水五攝津。畿の乾山城  
大和河内なる諸所の水  
土令流。南を海。水



山古来の<sup>やま</sup>の<sup>こ</sup>程<sup>ら</sup>の<sup>い</sup>津<sup>つ</sup>  
 宇内乃<sup>う</sup>因<sup>い</sup>候<sup>こう</sup>あり  
 出<sup>で</sup>入<sup>い</sup>船<sup>ふね</sup>終<sup>しま</sup>る<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>精<sup>せい</sup>養<sup>よう</sup>  
 多<sup>おほ</sup>敷<sup>し</sup>の<sup>の</sup>大<sup>おほ</sup>港<sup>こう</sup>を<sup>を</sup>冠<sup>かん</sup>する<sup>る</sup>を  
 大<sup>おほ</sup>坂<sup>さか</sup>府<sup>ふ</sup>東<sup>ひがし</sup>西<sup>にし</sup>二<sup>に</sup>京<sup>きやう</sup>あり<sup>り</sup>左<sup>ひだり</sup>  
 並<sup>なら</sup>び<sup>び</sup>合<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>す<sup>す</sup>三<sup>さん</sup>箇<sup>がん</sup>の<sup>の</sup>形<sup>かたち</sup>と



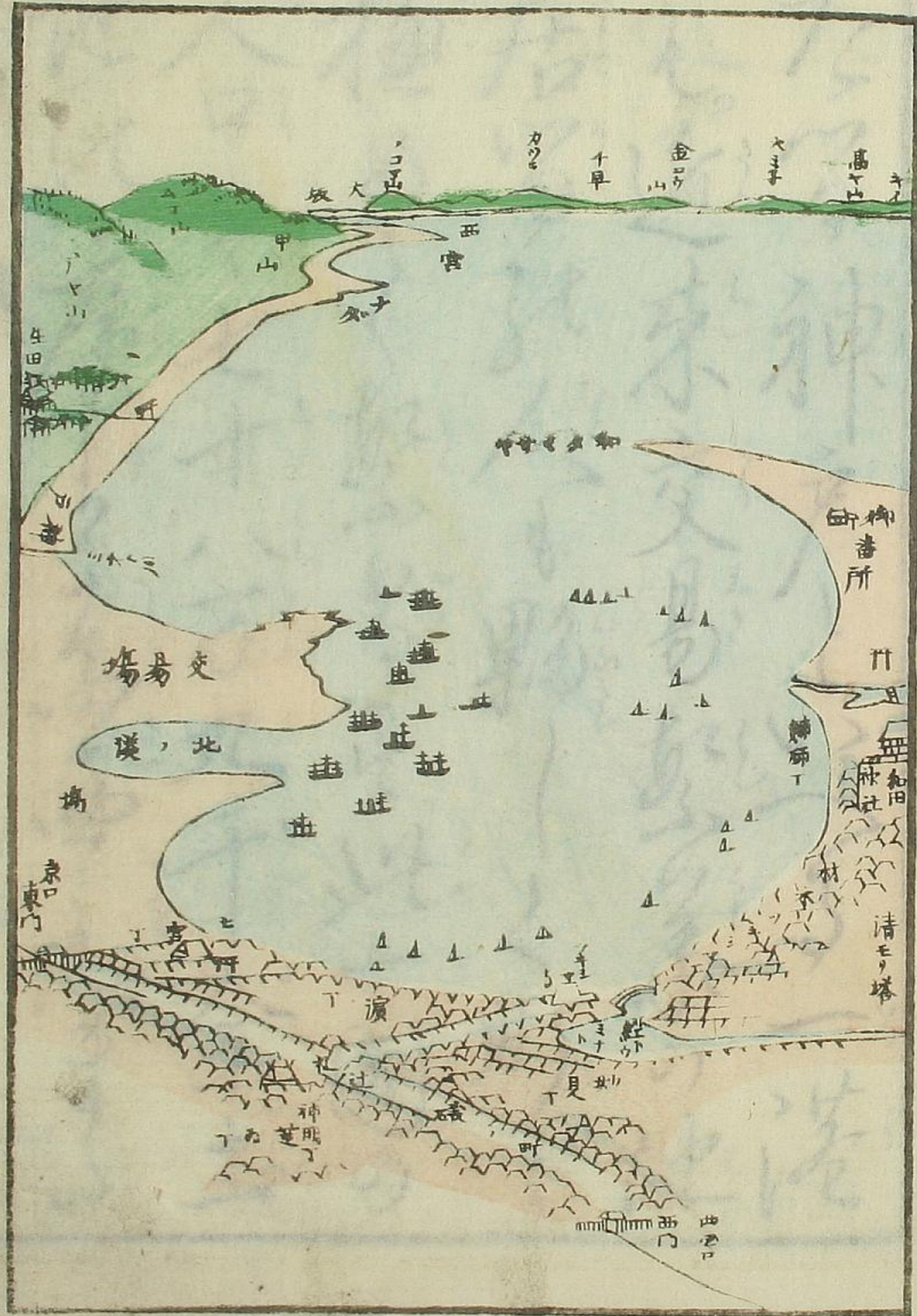




種一。富貴のものがた  
 き。高貴なるもの  
 と。通高次を著して居  
 留の人は、猶多く造幣  
 寮より金銀の圓を化具  
 幣を鑄造し、兵學寮に



兵庫縣圖



數千の陸兵枝を練  
 る。又府廳の管轄を當  
 國内は七郡  
 郡の西の方十里隔たる  
 兵庫は其の陸乃爰  
 轄をあり。兵庫所  
 兵庫町



兵庫縣圖



なる。神戸といふ一港  
 近來交易繁華の地  
 居留此人も夥しく町  
 極め繁華を以て一國の  
 人口七十八万九千余土  
 地は廣く東西に亘る

兵庫縣圖

十七



南ミナミ北キタは十五コノ里リあり。四ヨ町マチあり。暑ツルも暖ダシおほく。五イ里リ風フウおほく。善ヨシききおほく。人の三ミ采サイ頂トウの鹿カ袴ハカマして。上下ウヘノともしり。飲イふ。一ヒト名ナ所トコロよ。一ヒト名ナ所トコロよ。

兵庫ヒョウゴの西ニシに有馬山ウマヤマ。痼コ疾ツツを愈イむ。温ユ泉センあり。摩マ耶ヤの山ヤマ。布ヌ引ヒキ乃ノ池イケ。のりみ水ミヅのちる。絶ツツえ。武庫山ブコヤマ。神カミ峰ミネ。六ム儀ギ。割ワ。松マツ風フウ。須ス磨マ石イシの浦ウラ。又マタ名ナ物モノの。

日本国正統二年



品しやうくく。天てんの美び祿ろくの伊い丹たん  
酒しゆ礎いし堅かたきき漸しん穀こく石いし天てん王わう  
寺てら甘かん菴あん菁せい月げつ池いけ回かい炭たん灰かい左さののりり

瓜生氏日本國書卷一終



010190534176



